

# 普通科

## ◆目指す生徒像

- ①大学や短大などの上級学校への進学や公務員などを志し、自己を高めようとする意欲の高い生徒
- ②上級学校進学後に将来社会人として地域社会に貢献しようとする意欲の高い生徒

## ◆4つの特徴

- ①一人一人を大切にしたいきめ細かな授業
- ②専門学校から大学までの生徒の進路希望に応じた進路指導
- ③国語・数学・英語の3教科における習熟度別授業
- ④充実した朝学習による学習意欲の向上及び基礎学力の定着

進学や公務員を目指すなら普通科。少人数ならではのきめ細かな授業が実施されています。



## 【授業の様子】



猪苗代高校ホームページ <http://www.inawashiro-h.fks.ed.jp/>

ホームページには校内の話題が満載です。学校案内・学科情報や入試情報なども掲載しています。

## ◆猪苗代高校の制服◆



## 特集 猪苗代高校

# 入学のすゝめ

スキー、デュアルシステム、少人数教育…。猪苗代高校についてのキーワードは数多くあります。でも、どんな学校なのかは実際にのぞいてみなければ分かりません。今月号では、そんな猪苗代高校の魅力について紹介します。

## 【校訓】

「英知、忍耐、勤労」

【生徒数】 11月1日現在

学科	学年	1	2	3	計
普通科		30人	27人	29人	86人
国際観光科		28人	26人	24人	78人
計		58人	53人	53人	164人



私たちが  
ご案内します

## 猪苗代高校生徒会の皆さん

(写真左から) 大場明美さん(3年)、西館麻奈さん(2年)、長谷川杏樹さん(2年)、横田遥さん(2年)、小椋美希さん(2年)、加藤彰さん(3年)、神圭佑さん(3年)、渋谷徳之さん(2年)、鈴木柊也さん(3年)、坂本直俊さん(3年)。



就職はもちろん、資格取得を生かして大学進学への道も開けます。

## ◆目指す生徒像

- ①観光に関する基礎・基本を習得し、さらに観光に関する総合的な力を身に付け、観光産業を含め、さまざまな分野で活躍しようとする意欲の高い生徒
- ②国際観光科で学んだことを生かして、さらに大学等で学びを深めようとする意欲の高い生徒

## ◆4つの特徴

- ①観光関連企業の一流の実務者による講義・演習
- ②デュアルシステム<sup>\*</sup>によるホテル・旅館での実習
- ③商業関連の実務的な資格取得（簿記検定、情報処理検定等）
- ④資格取得を生かした大学等の上級学校への進学指導

※「デュアルシステム」とは、企業での実習と学校での講義などを組み合わせて実施することにより、若者を一人前の職業人に育てる実践的な教育・職業能力開発事業のことをいいます。

地域の特長を生かし、宿泊しながらのホテル実習などで、実際に働く現場などを体験します。学校生活だけでは学ぶことができない社会人としてのマナー、ルールなどを身につけることができます。

1年生では、町内の観光資源を見学し、地元観光の活性化には何が必要かを考えます。



◀土津神社・天鏡閣・迎賓館・野口英世記念館・猪苗代湖などの観光資源をいかに生かすかを学習します。また、食事をしながら、テーブルマナーについても学習します。

2年生では、ホテルの仕事やネイチャーガイドについて学習し、サービス技術を身に付けます。



◀実際にホテルへ行き、施設見学やサービスの仕方について学習します。また、五色沼周辺の自然観察を行い、ネイチャーガイドの仕方なども学習します。

3年生では、旅行業について学習し、旅行プランの作成を行います。



◀旅行代理店の支店長から魅力的な旅行プランの作成方法について講義を受け、実際に作成します。また、効果的なプレゼンテーションの仕方などについても学習します。

## 【猪苗代高校の歴史】

地域と共に歩んできた猪苗代高の歴史を紹介します



昭和15年（1940年）

猪苗代町裁縫女学校を町立猪苗代実科高等女学校として設立認可、猪苗代尋常高等小学校に併設

昭和18年（1943年）

町立猪苗代実科高等女学校を町立猪苗代高等女学校に改名

昭和22年（1947年）

町立猪苗代高等女学校に中学校を併設

昭和23年（1948年）

県立若松商業高校の定時制農業科猪苗代分校を設置

同年8月

町立猪苗代高等女学校と定時制農業科が合併し、県立猪苗代高校として独立（定時制農業科35名、家庭科29名）

昭和28年（1953年）

県高校スキー大会で初優勝

昭和30年（1955年）

短期産業課程を樋ノ口に設置、農業科、家庭科各20名募集

昭和32年（1957年）

生徒募集定員、普通科180名、農業科・家庭科各40名、定時制農業科・家庭科各10名、短期産業課程農業科・家庭科各10名

昭和33年（1958年）

定時制課程廃止

昭和35年（1960年）

短期産業課程廃止、町立産業高等学校として切替発足

昭和37年（1962年）

全国高校駅伝競走に福島県代表として初出場

昭和39年（1964年）

定員を大幅に改正（普通科110名、農業科50名、家政科55名）

昭和40年（1965年）

全国高校駅伝競走に東北代表として2度目の出場（15位）

昭和48年（1973年）

農業科募集停止、生徒募集定員、普通科180名、家政科45名

昭和49年（1974年）

・全国高等学校総合体育大会（インターハイ）スキー競技で男女共に総合準優勝  
・校舎改築竣工記念行事式典

## 自分に合った仕事を探してほしい

今の仕事に就いたきっかけは、「デュアルシステム」の研究でした。研修の時に、「自分に向いているかも」「研修で学んだことを生かせたら」と思ったのです。

実際の仕事では、サービスをする順番やグラスの配置など、細かいところまで気を配らなければなりません。厳しいですが、その分やりがいも感じています。

まだまだ知らないことがたくさんあって、毎日が勉強ですが、いろいろ学んで、お客さんに喜ばれるサービスを提供してい

たいです。自分の笑顔や頑張り、リピーター増加につながったらいいなと思っています。

私は、高校を卒業したら就職しようと思っていたので、猪苗代高を選びました。家から近かったことも理由の一つですが、国際観光科だと就職に有利だと思ったからです。その考えに間違いはありませんでした。

高校卒業後、就職したいと考えているなら国際観光科がおすすめです。いろいろな資格も取れますし、デュアルシステムでいろいろ学んで、自分に合った仕事を探してほしいです。

デュアルシステムが就職に生かされています



小檜山健汰さん

（平成25年度卒、国際観光科）

グランドサンピア猪苗代リゾートホテル勤務。料飲部門で働く。高校では野球部に所属。ポジションはキャッチャー、主将も務めた。

## 少人数ならではの良さがあります

中学生の頃は、大学進学を考えていませんでした。当時、高校を卒業したらサービス業の仕事に就きたいと思っていたので、国際観光科を選びました。

1年生の時に、元銀行員の先生の話を聞いて、進学すれば就職の幅が広がることを知り、大学に行こうと思いました。

猪苗代高には、少人数ならではの魅力があります。先生たちは、とても親身に進路の相談に乗ってくれます。

推薦入試で大学への進学を目指していた私に、小論文や面接を熱心に指導してくれました。

のびのびとした環境の中で学習できたことも私にとっては良かったです。違う高校に行っていたら、きっと福島大には進学できなかったと思います。

また、クラス替えがなかったこともあり、友人関係も良好で、楽しい高校生活を送ることができました。

商業系の資格を取るため町外の高校に進学したいと思う人もいますが、国際観光科でも取得できます。高校は、名前や偏差値で決めるのではなく、やりたいことを考えて選ぶことが大事だと思います。



難波彩香さん

（平成24年度卒、国際観光科）

福島大学2年、経済経営学類 企業経営専攻。高校時代に取得した全商簿記1級の資格を生かして推薦入学。税理士を目指す。

# 部活動

さまざまな部活動、同校会などがあり、精力的に活動しています



## サッカー部

僕たちサッカー部は毎日楽しく明るく活動しています。3年生が引退して、今新チームがスタートしたところですが、冬場には練習の一環としてフットサルにもチャレンジし、個々の技術力向上を目指しています。



渋谷 徳之 主将

## バスケット部

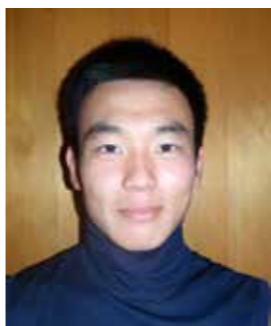
私たちバスケットボール部は、4月から県大会出場という大きな目標に向かって取り組んできました。そのために、走力アップと基礎技術の向上を目指して頑張っています。専門の先生の指導もしっかりと受けられるので、初心者でもメキメキと実力をつけられます。



佐藤 大成 主将

## スキー部

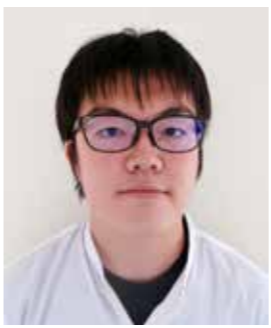
スキー部の部員は、個人個人目標を設定し、日々トレーニングに励んでいます。2013～2014シーズンは、長谷部尚仁(アルペンスキー)が全国高等学校選抜スキー大会大回転競技で優勝し、渡部大輝(コンパインド)はインターハイで9位入賞しました。このようにスキー部には、全国で活躍する選手が多く在籍しています。普段の練習のほか、磐梯山登山や猪苗代湖一周(ロードバイク)など、猪苗代の大



長谷部尚仁 主将

## バドミントン部

私たちバドミントン部は、楽しく元気に部活動に取り組んでいます。活動内容は、大会で好成績を残せるように、基礎から応用まで幅広く練習しています。今年は体育館を常時半面使えるので、一人一人のレベルアップはもとより、チーム全体の底上げをしていきたいと考えています。



小俣 汰葵 主将

## JRC委員会

私たちJRC委員会は、校内ではキャップ回収、募金、JRC新聞の作成、校外の活動では、町内のゴミ拾いやボランティア活動などを行ってきました。また、みんなが委員長にだけ頼らないように、部署分けなどしているので、一人一人が自分の力を発揮することができます。



長谷川杏樹 委員長

## 同校会・委員会

- ◆野球部 ◆バレーボール部 ◆柔道部 ◆茶道同好会 ◆創作文芸同好会 ◆科学研究同好会 ◆パソコン同好会
- ◆卓球部 ◆美術部 ◆吹奏楽委員会 ◆保健委員会 ◆図書委員会 ◆生活委員会
- ◆出版委員会 ◆視聴覚委員会

## 地域の皆さまに愛される学校に

本校の1日は、8時30分から10分間の「朝学習」が始まる。わずかに10分間だが、生徒全員が学習に取り組む。学習内容は生徒が自分で決め、授業の予習をする者や小説を読む者など、さまざまである。しかし、共通しているのは、全員が真剣に取り組んでいることである。

この取り組みは、導入時から上手くいった訳ではない。ここ数年だと聞いている。「朝学習」は、我が校に良い効果をもたらしてくれているように思う。まず、本校では遅刻をする者が皆無である。また、落ち着いた学校生活を送り、授業態度も良い。あいさつもしっかりとしてできる。さらに、帰りの清掃活動をきちんとやるのも、朝のスタートがしつかりしている。

### 朝学習から始まる1日



二瓶 晃一 校長

冒頭で学校の様子の一端を記述しましたが、本校は今年度で創立67年を迎えます。地域の要請に応えながら、地域を支える有為な人材を数多く輩出してきました。現在、卒業生がさまざまな分野において指導的な立場で活躍されているのを耳にするのは、この上ない喜びです。

本校は、新しいことにも積極的に取り組んできました。デュアルシステム(企業での実習と学校での講義などの教育を組み合わせて実施することにより一人前の職業人に育てるシステム)を県内の高校ではいち早く導入し、生徒の進路希望の実現につなげてきたのもその一例です。また、町に唯一の高校として、地域に貢献し交流を図るボランティア活動などに自主的に参加してきました。一方、スキー部の良き伝統は脈々と受け継がれ、毎年インターハイに出場し好成績を収めているところ

### 地域を支える人材を輩出

ること起因していると捉えている。

### 猪苗代高の取り組み

現在、本校は普通科と国際観光科の2学科で全校生が164名と少人数です。少子化の影響もあるのですが、本校ではこの少人数であることを逆手に取って、一人一人を大切にしたい。きめ細かな指導を実践しています。入学してくる生徒たちは3年間の高校生活で、学習面でも人間的にも大きな成長を遂げています。このことは、昨年度に実施した保護者アンケートで「学校の雰囲気は良く、子どもは楽しく充実した生活を送っているか」の問いに対して、約95%が「そう思う」と答えていることに如実に表れています。

今までも、これからも地域の皆さまと共に

私は、学校は地域の皆さまに愛され、育ててもらおうものだと考えています。現在の猪苗代高校があるのも地域の皆さまのおかげであり、今後もそうあり続けたいと思います。

教職員一同が地域の大切なお子さまをお預かりしているという意識を持ちながら、質の高い教育に専念していくことをお約束いたします。

### 少人数ならではのきめ細かな指導

鈴木 猛史 選手  
(平成18年度卒)

スキーを続けたかったことが猪苗代高に入学した一番の理由ですが、猪苗代が好きなので、地元の高校に通いたいという思いもありました。山や湖など、他にはない素晴らしい環境も魅力です。もっと多くの人に入学してほしいですね。

遠藤 尚 選手  
(平成20年度卒)

モーグルを続けたかったので、猪苗代高以外の高校は考えていませんでした。高校はもとより、地域も一体となってスポーツに力を入れているので、しっかりとスキーに向き合うことができました。それが自分の今につながっています。

【歴史に名を刻む先輩たち】

- 平成26年(2014年) 遠藤尚選手がソチオリンピックに出場
- 鈴木猛史選手がソチパラリンピックの回転座位で金メダル、滑降座位で銅メダルを獲得

- 昭和50年(1975年) インターハイスキー競技で男子総合3位
- 昭和54年(1979年) 家政科募集停止(普通科定員180名)
- 平成6年(1994年) 国際観光科新設、定員40名(普通科86名)
- 平成9年(1997年) 創立50周年記念式典
- 平成18年(2006年) チェアスキーの鈴木猛史選手(平成18年度卒、当時2年)がトリノパラリンピックに初出場
- 平成20年(2008年) 普通科1学級減(普通科40名、国際観光科40名)
- 平成22年(2010年) モーグルの遠藤尚選手(平成20年度卒)がバンクーバーオリンピックに初出場し、日本男子初の7位入賞
- 鈴木猛史選手がバンクーバーパラリンピックの大回転座位で銅メダルを獲得
- インターハイスキー競技の男子大回転で井上賢之介選手(当時3年)が初優勝